

ニュージャージー日本人学校における 自然的・文化的・人的特性を生かした学習活動の試み

前ニュージャージー日本人学校 教諭

大分県日田市立日隈小学校 教諭 吉 武 芳 彦

キーワード：在外教育施設、アメリカ、校外学習

1. はじめに

(1) 背景となる問題関心

在外教育施設への派遣は今回で2回目となる。1回目は1999-2001年に、フィリピンのマニラ日本人学校（小中併設、児童生徒数約600名〔当時〕）へ派遣された。当時はクーデターによる大統領の交替、イスラム過激派によるテロなど治安としてはあまり良くなく、学校を離れて行う子どもたちの教育活動について、多くの制限があった。

今回はアメリカ合衆国東部のニュージャージー日本人学校（小中併設、児童生徒数約70名〔当時〕）へ派遣された。2001年9月11日には、全世界に衝撃を与えたあの「アメリカ同時多発テロ事件」が発生したが、派遣当日JFK空港に降り立った印象としては、マニラの街の様子と比べると、ライフル銃を持った守衛も見かけられず、治安に関しては比較的安全な印象を受けた。

以前より、日本を遠く離れ海外で暮らす子どもたちに、日本国内と同等の教育、またその地の利を生かしたそれ以上の教育が行えないものかという大きな関心はあった。マニラ日本人学校では、前述のような治安状況ではあったが、年間を通して気温が高い「常夏」という気候条件に恵まれていたために、体育科の授業においては、年間を通して週1回以上の水泳の授業が、現地のローカルスタッフとともに3人体制で位置づけられていた。そのことによって、小学部6年生においては、多くの子が個人メドレーができる段階（当時）まで達していた。そこで、今回、ニュージャージー日本人学校の行事をアレンジしていった教務主任としての立場から、その概要について紹介していきたい。

(2) ニュージャージー日本人学校の概要

ニュージャージー日本人学校は、アメリカ合衆国の東海岸、ニュージャージー州北部バーゲン郡のオークランド市に位置する。青森市とほぼ同じ緯度である。ニューヨーク市との境界からは車で40分ほど西へ走った場所であるが、校舎は広葉樹に囲まれた閑静な環境の中にあり、野生のリスやウサギ、シカが現れる自然豊かな地に立地する。学校周辺は、戦後マンハッタンで働く人たちの別荘地として栄え、今もその名残で大きな敷地に大きな家が立っている。時折熊も現れるが、治安状況は非常によい。

またマンハッタンへも手軽に行けることから、世界有数の文化的施設へのアクセスも良い。加えて、多くの著名人もニューヨーク市に居住したり、訪れたりすることが多いため、講師として招いた経験も多く持つ。

2. 自然的環境を生かした実践

(1) 活動企画の意図

治安が良いこと、また自然環境に恵まれていることを前述したが、ニュージャージー州では法律によって、日本国内のように子どもたちだけで遊びに行くということができない。そのため、放課後友人との遊びは保護者による送迎で、屋内で遊ぶことが多くなる。したがって、日本国内と比して子どもたちの運動量はきわめて低く、またそれに伴い、まわりに豊富にある自然と触れ合う機会も少ない。

このことから、特に初等部の第4・5学年について、自然の中で2泊3日の宿泊体験学習を企画し、実施していった。

(2) 実施後の考察

今回、アメリカに住む高学年児童の放課後の時間において、戸外で遊ぶ機会を十分に確保できない実態に対して、この自然体験活動の取り組みは大いに貢献できたと考える。2泊3日の間、大自然の中で終日活動することはかなりの運動量であり、日頃の運動不足の補完としては余りあるものであった。また児童の居住地にも「自然」は満ちあふれているが、実際に池の中に入ったり、山を巡り歩いたりする経験は皆無であるため、児童にとってこの地で活動することはとても新鮮な体験であった。

この自然体験活動における主目的は「アメリカの大自然に触れる様々な活動や学年段階に応じた環境に関する学習を通して、アメリカの良さを実感し自然を愛する心を育てると共に、環境を守るために自分にできることを考え実践していこうとする態度を育てる」ことである。しかし副産物的に、希薄になりがちである仲間とのつながりを意識させ、協力の大切さを学ばせることもできた。在外教育施設である本校は転出入が多く、下学年次からずっと一緒に学校生活を送ってきた児童は少ない。したがって高学年へと進級するこの時期に、寝食を共にするこの校外宿泊学習はきわめて有効であった。さらに、この自然体験活動では、子どもたちと直接関わるインストラクターはすべて米人である。しかしこのことも二次的に児童の異文化間教育に寄与し、日頃のESLの授業を深化させるための一助となった。

今後もこの活動を継続させ、より効果的な学習にしていくためには、米人のインストラクターと触れ合うだけではなく、現地の学校の同世代の子どもたちとともに活動させる場面も有効であるのではないだろうか。年長者との英語を通じた関わりは、どうしても受け身になりがちである。しかし、同世代の子どもたちと触れ合うことは、「受信」するだけではなく「発信」する意欲も喚起し、より異文化間の理解が深まっていくと考えている。これらの成果を十分に引き継ぎ、より意義深い活動になっていくことを期待したい。

3. 文化的環境を生かした実践

ニュージャージー日本人学校は、マンハッタンへ車で1時間程、また東部主要都市に陸路で行くことができる立地条件である。したがって、教科等の学習において実際に見て、触れて学習した方が教育的効果も高いと判断したものに関しては、積極的に以下のような校外学習を取り入れて行った。

活動名等	主要見学地	ねらい
芸術鑑賞会 第4学年以上 @マンハッタン	メトロポリタン美術館	本物の芸術に触れ、美術鑑賞の意欲を養うと共に、展示品についての知識を得る。
中等部校外学習 第7, 8, 9学年 @マンハッタン	・国際連合本部 ・JAPAN SOCIETY ・テレビ朝日NY支社	事前学習、班別活動を通して、主体的行動力、コミュニケーション能力、追究力の育成を図る。
初等部修学旅行 第6学年 @フィラデルフィア	・独立記念館 ・リバティバル ・MINT（造幣局） ・フィラデルフィア美術館	アメリカ建国にかかわりの深い建築物、博物館を見学したり、フィラデルフィアの文化や地理を主体的に学んだりする活動を通して、アメリカ社会の理解を深める。
中等部修学旅行 第8学年 @ボストン	・メイフラワー号II ・ボストン市内 ・フリーダムトレイル ・ハーバード大学 ・マサチューセッツ工科大学	清教徒が最初に入植した地であるプリマス、アメリカ独立戦争ゆかりの地であるボストン、そして世界をリードするハーバード大学、マサチューセッツ工科大学があるケンブリッジを巡るなかで米社会の過去・現在・そして未来について考えることができる。
第5学年 社会見学 @マンハッタン	・フジテレビNY支社 ・地元日系新聞社	放送、新聞、インターネットなどの情報産業に関心を持ち、その見学を通して情報産業に関わる人々の苦勞ややりがいについて意欲的に調べる。

第6学年 社会見学 @マンハッタン	・国際連合本部 ・在ニューヨーク 総領事館	国際連合本部見学を通して、世界の国々の国際交流や国際協力の様子、及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働きに関心をもたせ、世界平和の大切さと世界の中での日本の役割について理解させる。
-------------------------	-----------------------------	--

これらの本物に触れる校外学習は、事後の感想や作文、またプレゼンテーション発表からも、印象深い活動として児童生徒の心に強く残っていることがうかがえる。できればもっとその機会を増やしていきたいが、その必要経費については、多くの保護者負担をお願いするところから、予算面が大きな検討課題となる。

4. 人的環境を生かした実践

(1) 現地校交流について

ニュージャージー日本人学校では、初等部・中等部ともに、それぞれ年2回の「現地校交流」を実施している。相手校となる現地校は、同じオークランド市にある公立校で、前期は現地校を招待し、後期は現地校を訪問するというサイクルで行ってきた。

アメリカに居住する日本人子女においては、現地の学校に通うか、日本人学校に通うかといった2つの選択肢が考えられる。前者を選んだ場合は、学力面の補完として土曜日に「補習授業校」に通うことになるが、多くの家庭が語学の伸長を期待し、現地の学校に通わせる場合が多い。一方、日本人学校に通う子どもたちは、日本と同様のカリキュラムで学習していくため、学力面は十分に深まっていく反面、家庭でも学校でも日本語一色の生活のため、なかなか現地の子と触れ合う機会がなく、現地校に通う子と同レベルの英語力とまではない。

したがって、本行事は子どもの言葉を借りると「1年で最も緊張する行事」ということであるが、それだけに非常に重要な意義を持つ行事でもある。しかし相手校にとっては、そこまで大きなメリットが見受けられず、近年、相手校を探すことが難しくなっている現状にある。

(2) 著名人の方によるゲストティーチャー授業

世界的な大都市ニューヨーク近郊にあることから、多くの著名人の方に接触しやすいということも「人的環境」を生かした取り組みの1つである。職員室前廊下に、今まで本校を訪れた著名人の方の写真と色紙が掲げられているが、以下の方々である。

- ・松井秀喜氏：プロ野球選手。NYヤンキースで活躍し、国民栄誉賞を受賞。
- ・毛利 衛氏：日本人宇宙飛行士。スペースシャトルエンデバーに搭乗。
- ・原田雅彦氏：スキージャンプ選手。長野オリンピック金メダリスト。
- ・野口聡一氏：日本人宇宙飛行士。09年国際宇宙SSに約5ヶ月間滞在。

ちなみに、私が派遣されていた2011年度は、NY在住のジャズミュージシャン、大江千里氏を招いて、音楽鑑賞会を行った。

5. まとめ

以上、ニュージャージー日本人学校の立地条件から、自然的・文化的・人的特性に注目して振り返っていった。これらの環境は「恵まれている」と受け取られるかもしれないが、日本国内の学校であってもそれぞれ固有の「地域」をもっている。それをどのように引き出すか、どのようにアレンジして子どもたちに提供するかということが、教師の大きな役割である。

学ぶ場はちがうが、日本国内でもこの経験を生かし、工夫した教育活動を仕組んでいきたい。